

【巻頭言】

初 夢

学長補佐
花岡 美代次

新ミレニアムの年頭に当たって、100年後にどんな事が実現しているかを予測した100年前の新聞記事や本が紹介された。日本列島が列車で結ばれ、地下に列車や車が走り、東京・神戸間2時間半、7日間で世界一周、風呂に浸かりながら世界からの映像観賞、映像電話、等々、中には富士山に大照明灯を付けて東京を明るくするといったものまでであるが、これら予測のほとんどが的中しているのは大きな驚きであり、20世紀がまさに科学技術の世紀であったことの証左でもある。

昨年、東海村臨界事故、新幹線トンネルのコンクリート崩落事故、各種の医療事故、H2ロケット再度の失敗等、技術立国日本を根底から揺るがす事故がたて続けに起こった。これらは、科学技術の問題というより人間の方に問題があったと見なすべきであろうが、科学技術に対する疑心を引き起こし反省を促したのも事実であろう。今世紀は科学技術により人間が自然に挑み、自然征服を夢見た時代でもあった。反面、科学技術は各種の兵器を始め、60年代の公害から現今の環境ホルモンまで幾多の負の財産をも生み出してきた。今後は、自然に調和した、自然にやさしい、自然に学ぶ、green scienceがキーワードとなろう。

100年前にならって、いくばくかの夢を見た。石油に代わって水素がエネルギー源の首座を占める。大量の水素を吸収し効率良く放出できる有機金属化合物が開発され、水素をどこへでも安全にコンパクトに運搬可能となり、必要なところで必要なだけ発電できるようになり、発電所も送電線も不要になる。水素で走る車から出るのは水だけとなり、道路はいつも散水され、お陰でほこり立たずである。水素発生のためのエネルギーは台風と波からいただく。四方を海に囲まれ台風銀座の日本は、一躍エネルギー輸出国となる。各人の遺伝子マップがつくられ、疾病の診断と予防に応用され、一人一人異なるオーダーメイド薬品が造られ、よりきめ細かい的確なオーダーメイド治療が施される。無溶媒で副生成物なしで欲しいものだけを造る化学合成法が開発される一方、完全なリサイクルシステムが完成し、廃溶媒など廃棄物は皆無となる。そのため、わが環境保全センターの出番は極端に少なくなり、センターは存亡の危機にさらされる。IT (Information Technology)革命は益々進行し、だれでも、いつでも、どこでも、必要な情報だけを簡便に得られるようになる。そのとき、大学は？